

## (1) 玉川学園高等部・中学部

訪問日：令和元年 11月1日（金）

訪問者：篠原座長、田村座長代理、小玉委員、佃委員

### 1. 第9学年（中学校3年）社会科の授業（30名程度）の視察

- ・グループワークを通して投票権をはじめとした権利と責任を考える授業。
- ・権利を得るとは責任を負うこととの観点から、ある権利について何歳になれば与えられるのが適当と考えるかについて個々に考えた。
- ・その後、5～6名のグループになり、グループとしての結論をまとめて意見を発表した。

○授業の導入として、数名の生徒が最近読んだ新聞記事の時事的な内容を学級に紹介。

○教員が、選挙権年齢の引き下げの状況を説明するとともに、投票率について18歳・19歳の投票率が低いことや70歳代の投票率が高いことについて紹介し、生徒にその理由を考えさせた。その際、例えば、以下のような意見が出ていた。

- ・高齢者は若い世代に比べて時間があるから投票に行くのではないか。
- ・選挙の仕組みが複雑でわかりにくい。
- ・10代はどの候補者に投票したら良いかがわからないから投票にいかないのではないか。

○教員が、若い世代がどうしたら投票に参加するか問いかけ、生徒から以下のような意見が出ていた。

- ・インターネットを活用した投票をできるようにすれば良いのではないか。投票所まで行くのが面倒なのでいかないのではないか。

○その後、権利を得るとは責任を負うこととの観点から、ワークシートをもとに、「車を運転する」「アルバイトをする」「携帯電話を持つ」「選挙で投票する」「結婚をする」といった5つの権利について、何歳になれば、与えられるのが適当と考えるか、について、まずは個々に自分の意見を考えさせた。考える際に実際に法律で何歳と決められているかは考慮しなくて良いこととした。

○その後、5～6名のグループになり、それぞれの意見を交換しながら、グループとしての結論をまとめていった。

○グループごとにまとめた意見を発表した。発表の内容としては、例えば、以下のような意見が生徒から出された。

- ・「自動車の運転」は、中学校を卒業してから働く人もいるし、車で移動することが多い地域もあると思うので16歳からが良いのではないか。

- ・「アルバイトをする」について、高校を卒業して社会人になる人も多いので、高校生の中に社会の一般常識を知っておけるよう16歳からできるようにするのが良い。
- ・「結婚をする」について、子供が生まれた場合に責任をもって育てることが必要なので、20歳の方が良いのではないか。

○その後、現在の日本では法律で何歳と定められているか教員から伝えた。

○最後に権利には責任が伴うことについて教員から伝えた上で、それぞれの権利にどのような責任が伴うかを考えさせた。

## 2. 第12学年（高校3年）公民科 選択科目ワールド・スタディーズ（20名程度）の授業の視察

- ・2019年の参議院選挙の選挙公報を使用してグループで疑問点を出し合う。
- ・その後、各政策についての様々な意見を踏まえて、模擬投票を実施する授業。

○教員が、選挙権年齢の引き下げの状況を説明し、生徒に向けて選挙に行ったことがあるかどうかを問いかけ、半数ほど（10人程度）が挙手。

○なぜ若い世代に投票権を広げようという動きが進んだのかについて問を投げかけつつ、日本の人口変化を示し、若者の意見を政治に取り入れることの必要性が高まっていることを伝える。

○年齢が選挙権年齢に達したからといって投票ができる力が身に付くものではないことを伝え、自分で考えて各候補者を見極めた上で投票に参加できるようになるためには練習が必要であることを伝える。

○アメリカの高校で行われた大統領選を扱った模擬選挙の実践を紹介するとともに、ALTの先生からアメリカの大統領選における年代別の投票率の推移を紹介し、生徒からの質問に対応する。（全て英語で実施）

○その後、3～4名のグループをつくり、令和元年7月の参議院議員通常選挙の際の政党の重点政策・公約の比較表（民間団体が作成）をもとに政党の主張を概観し、話し合いながら疑問点を出す。

○グループごとに模造紙に疑問点をまとめ、グループごとに発表する。

○発表の内容としては、例えば、以下のような疑問点が生徒から出された。

- ・紙面の都合上、抽象的な表現が多くなっている。その中でも与党は現実的だが野党は理想論が多いのではないか？

- ・なぜ野党は全て憲法改正に反対しているのか？
- ・農家の所得補償について、なぜ特定の業界を守る必要があるのか？
- ・憲法改正に関し、外国人労働者の子供の就学義務がないことはどう考えているのか？
- ・アメリカに頼らずに自国を守ることはできるのか？
- ・消費税の引き上げに反対している党は、消費税以外にどんな税を財源にしようとしているのか？財源の裏付けのないバラマキの政策が多いと感じる。
- ・高齢者が安心して暮らすことが社会の活力になるというのはなぜか？
- ・児童虐待の根絶はどのような状態を「根絶」と指すのか？
- ・(永住権をもつ外国人は選挙権を持たないことを授業で学んだことから) 永住権を持つ外国人の意見をどのようにすれば拾うことができるのだろうか？
- ・高齢者向けの政策が多く、若者向けの政策や女性活躍に関する政策、外国人労働者向けの政策が少ないのはなぜか？
- ・子供向けの政策もあるが、その前に親への支援が必要なのではないか？
- ・エネルギー施策について、原子力発電の問題が多く取り上げられているが、CO2削減の問題については火力発電にも課題はあるのに、どの党も取り上げていないのはなぜか？

○各政策への様々な意見を踏まえて、再度自分で投票先を検討。秘密投票など選挙の原則を確認してから、模擬投票を実施。模擬投票では廊下に選挙管理委員会から借りた本物の投票箱を設置し、投票する。

○教員が、最初に投票する生徒とともに、投票箱に何も入っていないことを確認した。また、模擬投票に参加した生徒には「voted!」と書かれたシールを1枚ずつ渡した。

○模擬投票の結果の開票は、次の時間で行うこととし、授業の最後に教員から投票の意義とともに、投票に主体的に参加して欲しいということを伝えた。

### 3. 主権者教育推進会議委員と生徒（第12学年（高校3年））との意見交換

○授業後に委員と生徒の間で意見交換を行い、投票に関する周囲からの影響については、メディアと切り離して自分の意見を持つことは意識しないと難しい、家族と話している内容について影響を受けていると思う、という意見があげられた。また、授業を通して変わったことについては、授業を通して人と議論することで自分では思わなかった批判的な見方があることに気付いた等の意見があげられた。また、若者が政治に参加できるように社会に期待することについては、各政党が政策をわかりやすく伝えて興味を持たせる工夫をしてほしいこと、例えば憲法改正の議論については、改正されたら社会がどう変わるかイメージが持てない等の意見があげられた。

## (2) 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

訪問日：令和元年 11月8日(金)

訪問者：篠原座長、植草委員、小玉委員、佃委員、中村委員、松川委員

※田村座長代理は渋谷教育学園理事長としてご参加

### 1. 中学校3年生社会科の視察(1学級・40名程度)

- ・2時間で構成する授業。
- ・1時間目は、候補者の政策のメリット・デメリットについて、資料を基にまずは個人として考え投票、次にグループとして、50年後の視点も踏まえて、どの候補者の政策がよいかについて理由とともに検討し、各グループが分析した情報を踏まえて、再度投票する。
- ・2時間目は、グループで模擬家族を構成し、割り当てられた祖父母、父母、兄、妹等の立場で良い政策は何かを話合う。最後に自身の立場でどの候補者に投票したいかを検討し、模擬投票を行う。
- ・また、授業終了後は放課後を利用して、岐阜県池田町の中学校(渋谷教育学園と同様の授業を実施)の生徒とテレビ会議で議論する。

### 授業① 1時間目の授業(立候補者の政策を検討する授業)を行っている学級

○架空のX市における首長選挙を想定し、教員がA~Fの候補者とそれぞれの候補者が主張する政策についての資料を提示する。生徒は、資料を基にまずは個人として考え、挙手による投票(第1回目)をする。各候補者の主張は、以下の通り。

- A：統合型テーマパークで町を活性化    B：太陽光発電所で環境と家計に優しく  
C：大学でキャリアアップ                      D：大型病院で安心  
E：大型ショッピングモールで快適に    F：新幹線がもたらす富で圧倒的成長

○続いて、グループごとに割り振られたで政策についての良い点と悪い点を話し合い、出た意見を Good と Bad に分けて付箋で模造紙に貼っていく。その際、今の自分の視点と50年後の2つの視点からも考えさせえる。その上で、例えば、Eのショッピングモールに関しては、以下のような意見が出ていた。

(Good)

- ・便利になる
- ・若い家族が増える
- ・家族全員で外へ出ることが増える

- ・ X 市内のみならず市外からの需要を見込める
- ・ 工場跡地を活用すれば用地取得の必要はない

(Bad)

- ・ 歳入の半分もお金がかかる
- ・ 財政が厳しくなっているため大幅な赤字リスクもある
- ・ こんな過疎地域に店をかまえてくれるブランドはあるのか
- ・ 駅から歩いていくには少し遠い
- ・ 地方商店の売り上げへ悪影響が出る
- ・ 自然が残るまちなのに景観が損なわれる
- ・ 工事中に畑の食物に毒がはいる可能性が増える

○ポスターセッション形式で、各グループでそれぞれの政策にどのような意見が出たのかを確認し、各人ごとに第 2 回目の投票を行う。

**授業② 2 時間目の授業（模擬家族を構成し、与えられた立場で政策を検討する授業）を行っている学級**

- 各グループに、架空の家族構成を提示し、祖父母や、親、子供などの役割を分担する。またその家族が過ごす一日の流れを具体的に考える。その後、各立場から見た、最も良い政策について話し合う。
- 話し合いの後、立場によって意見の違いがあることを踏まえた上で、もう一度自分の立場に戻り A～F の候補者のいずれかに投票をおこなう（第 3 回目）。
- 投票結果の経緯について確認しながら、どのような変化があったのかを確認する。本学級の投票結果については、B：太陽光発電 が減り、D：病院が多くなっていること等がわかり、現在の自分の視点からだけでなく、将来どうなるかという視点や、様々な立場から考えることの大切さを教員から伝える。

## 2. 主権者教育推進会議委員と生徒との意見交換

○授業後に委員と生徒との間で意見交換を行い、選挙に関することについて、選挙権年齢が引き下げられ自分の意見を間接的にでも政治に反映できることが楽しみという意見や、今回の授業については地方の首長選挙だったので関心をもてたが、国政選挙になると有権者と候補者との距離感があり、若者の関心が低くなると思うといった意見があげられた。また、関心のある社会問題としては、少子化や年金の問題で自分たちが大人になった時にどうなっているのか不安があるという意見があげられた。さらに、家庭教育に関しては、保護者と一緒に投票にいったことがあることや、ニュースを見ながら政治に関して話したことがある、等の意見があげられた。

## 3. 主権者教育推進会議委員と学校との意見交換

○18歳になり選挙直前に主権者教育を行うのではなく、小中学校の段階から取り組むことが大切だと思う。

・渋谷教育学園に入学して子供達は小学校よりゆっくりと過ごせるようになったと言っている。そうした中で、自由な話し合いが実践できている。

○今回の授業の評価はどのように行うか。レポートを書かせたりするのか。

・基本的にはそうしたことは考えていない。同時並行で関連したプロジェクトなどがあり、その際の子供の様子などを見ている。例えば、研修旅行で班ごとにインタビューを行い1人1200字以上のレポート提出を求めたりする活動の様子などを見ていきたいと思っている。

○評定といったことは行わないものの、子供の変化を読み取りながら評価しているのか。

・A～Eというような評価はしていないが、子供の変化については見取るようにしている。

○教員が授業を評価する際、生徒にどのような点が見られると良い授業だった、と考えているのか。

・政策の良い点や悪い点をバランスよくあげられているか、その分析ができているか、といった点を見ている。

○教員の関わり方など、授業を実施する上での留意点などはあるか。

・基本的には生徒の発想の幅を狭めるようなことはしないよう事前の打合せを丁寧に行っている。なかなか議論が深まらず付箋がついていない班もあったが、どこも期待以上に主体的に取り組んでくれたと思う。

・生徒に気付いて欲しいことは、世の中には様々な立場の人がいるということ。社会的に恵まれていない立場の人たちが取り残されることのないように、色々な視点を持って欲しい。

・多様な社会の中に、将来の視点も意識させたい。50年後65歳の自分から見て、そのときの家族の状況など、想像をめぐらせてもらいたいと考えた。

・時間があれば、面と向かって話す時間を充実させたいと思っている。最近は SNS によるコミュニケーションが多いので、生徒が対面での対話が苦手になってきていると思う。

○いつ頃からこういった授業が始まったのか、どのような経緯で始まったのか。

・公職選挙法改正に伴う機運の高まりを踏まえ、教員が企画し、中学段階の生徒を対象にクラス政党を作り、模擬選挙を実施。保護者会、教職員も参加して投票を行った。

・勝利した学級が組閣し、その後は敗れた学級がシャドウ・キャビネットを作るなどの取組が広がり、この取組を知ったメディアの方から取材を受けるようになった。その方とのつながりもあり、当時の「初代総理大臣」であった生徒（現大学生）と、岐阜県内の中学校で主権者教育を実践していた教員との交流が始まる。その教員が、岐阜県池田町立池田中学校に赴任したため、現在は、池田中学校と渋谷教育学園が連携して取り組んでいる。

・本日使用した教材や授業の流れについては、本生徒が開発したもので、岐阜県の中学校と自校で実践している。本生徒は高校時代に岐阜県まで行き、授業のティーチングアシスタントとして参加している。

・池田中学校でも今回の授業を全クラス合同で実施している。教員だけでは対応が難しいことを踏まえ、本生徒が高校時代の同期生に声をかけ、ティーチングアシスタント10名が岐阜県に自費で出向き、授業の補助をしている。

○先生が生徒の前で「政治は妥協」「落としどころ」という発言を行うことに驚いた。教員は正しい姿・あるべき姿を伝えるべきというイメージがあるが、世の中では何が正しいということはないので、主権者教育を進める上でとても重要だと思う。なぜそういうことができるのか？

- ・学校の風土として、自由な雰囲気があり、生徒は自らの主張をしっかりと言う傾向がある。
- ・その上で様々な意見が出て、妥協する場面が出てくるのではないかと。



### (3) 東京都立国際高等学校

訪問日：令和元年 11月12日(火)

訪問者：篠原座長

#### 1. 高等学校3年選択授業 現代社会の授業(20名)の視察①

- ・「決め方」をテーマに、選挙、多数決以外にも様々な方法があることを体験させながら考えさせる授業。
- ・2時間連続の授業のうちの1時間目として小学校6年生最後の給食のメニューをどうするかという問いについて、各学年の希望するメニューの数とともに代表者の意見をまとめた資料をもとに生徒が議論を行った。

○授業の導入として、教員から、令和元年7月に行われた参議院議員通常選挙に投票に行ったかどうかを問いかけた。

○国際高校の有権者である生徒が7月の参院選においては8割を超える投票率だったことを紹介し、国際高校の生徒が政治に高い関心を寄せていることを取り上げつつ、投票に行けなかった生徒には大事な予定があった者や、日本国籍を持たないことにより行きたくても行けなかった生徒がいることを振り返った。

○政治参加については、選挙に行き投票することだけが政治参加ではなく、日本であれ世界であれ、自分たちの社会をどのような社会にしていきたいか考えることが重要であることを伝え、2コマの授業を通して「決め方」をテーマに授業を進めていくことを示した。

○小学校における児童会の会長になったことを想定して、児童会で卒業式前日の給食にどのようなメニューを選ぶべきかを本授業では考えていくことが示され、資料として各学年の希望メニューと代表者の意見が生徒に配布され、資料をもとに、児童会の会長である自分はどのメニューを選ぶかを考えさせた。

○「スパゲッティミートソース」「鶏のからあげ」「スパゲッティナポリタン」「カレーうどん」「ハンバーグ」「カレーライス」の6種類から自分が選んだメニューを挙手にて集計し、なぜ選んだのか理由を聞いた。その際挙がった主な意見は以下のとおりである。

- ・(「鶏のからあげ」を選択) 卒業式の前日のメニューなので、卒業に近い学年を優先して考

え、傾斜を付けたポイント制とした。6年生の数には6点を、5年生の数には5点…というように希望児童数に各学年の数を掛け集計したところ、鶏のからあげは341点と一番多くなったため。

- ・(「カレーライス」を選択) 2位の数も含めて全部足し上げて一番人数が多く集まったメニューだったため。
- ・(「ミートソース」を選択) 卒業する6年生の多数決の結果を優先したため。

○その後、3～4人のグループに分かれ、グループでどのメニューにするべきか話し合った。その際教員から、「カレーうどん」がよいと考える保護者からなぜ「カレーうどん」以外のメニューになったのかという問合せが来たら、どのような決め方をして、メニューを決定したのかを答えられるようにという指示があった。

○5～6分程度の話し合いの後、給食のメニューと選んだ理由をグループごとに発表した。グループから挙げた主な意見は以下のとおりである。

- ・(「ミートソース」を選択) 6年生の最後の給食なので、6年生の集計結果を優先した。また、第1位に選ばれたメニューは「ミートソース」が6年生と4年生、「ナポリタン」が3年生、「カレーうどん」が2年生と麺類が多かったので、麺類を優先した。
- ・(「ミートソース」を選択) 6年生は最後の給食になるので、優先されるべき。6年生だけでなく、5年生(2位)や4年生(1位)においても「ミートソース」は選ばれているので、偏った結果ではないと思う。
- ・(「カレーライス」を選択)「みんなの意見が反映されることを考えて」という、児童会担当教員からの言葉を重要視した場合、全体の中で一番選んだ人数の多い「カレーライス」を選ぶべきでは。

○「最後の給食なのだから」という理由で6年生の意見を優先することは、現代の世の中に置き換えてみると「いずれみんな高齢者になるのだから」という理由で高齢者を優先した政策を立てることと考え方はつながっているのではないかと教員から問いかけ、どのように決めるかということは大切であり、難しいことでもあると伝えた。

○決め方の一例として、配布された資料をもとに教員からボルダールールの紹介がされる。ボルダールールは順位が高い順に任意の得点を配点し集約する方法。

○ボルダールールに基づいて、給食のメニューにおける得点集約をすると、1位を2点、2位を1点とした場合には、一番得点を集めるのは「鶏のからあげ」(114点)となる。しかし、1位を3点、2位を2点と設定した場合には、一番は「カレーライス」(182点)となる。

○上記の例示をもとに、どのような決め方とするかによって結論は変わってくるということが示され、考え方を变えて、ある特定のメニューにしたい場合にはどのような考え方をすればいいのか、教員から以下のように示された。

「ミートソース」:「間接民主制(ロック)」1位として選んだ学年が2学年あるので、代表の

意見を尊重した場合。

「鶏のからあげ」：「ボルダール」 「直接民主制（ルソー）」 1位として選んだメニューの中で総合得票数が一番多いメニューを選んだ場合。

「カレーライス」：「ボルダール」 2位の意見も含めて総合得票数が一番多いメニューを選んだ場合。

「カレーうどん」：「絶対王政」 児童会担当教員が好きなメニューを尊重した場合。

○最後のワークとして、会議の議長に対して1年生の児童から「ハンバーグ」にして欲しいという訴えがあり、かなえてあげたいと思った場合に、メニューの決定権がない議長としてどう対応するかを想定してグループで5分ほど話し合った。その際、教員からは妙案が思いつかなかったことが伝えられ、答えの無い問いであることが示される。生徒から挙げた主な意見は以下のとおり。

- ・ 事情を説明し、感情に訴える。
- ・ 他の学年の代表を説得する。

○訴え、説得して「ハンバーグ」にすることは「合意形成」であり、一つの決め方であることが教員から示されるが、合意形成はいつもできるわけではなく、できなかった場合には「選挙（投票）」といった手段が取られることを伝える。

○いきなり「選挙」という手段を取ることが「民主主義」ではなく、議論を踏まえた上で結論を出す方法として「選挙」があるということ、決め方によって結論が変わることから、議論することが重要であることが伝えられた。

○最後に、本授業で考えた問いは国際高校の近隣の私立中学校で過去に中学入試問題で問われたものであると教員から紹介された。

## 2. 高等学校3年選択授業 現代社会の授業（20名）の視察②

2時間目は外国における女性の政治参加割合や制度を例に、アフターマティブアクションを基に議論、考察させる授業。

○冒頭、男女の政治参加について、資料を配布し、提示されている3つの案をもとに第4の案を生徒自ら考案していくことが本時のねらいとして示された。

○まず男女平等については、日本国憲法第14条に規定されており、この規定を具現化するため、例えば男女雇用機会均等法が定められていることが紹介され、日本では男女平等を確実なものにすることが目指されていることが示されるが、現実の社会においては男女平等が達成されていない部分も少なからずあることが示された。

○内閣府のデータを参考として提示し、諸外国の国会議員に占める女性割合の推移グラフを確

認し、日本が世界の中で何位に位置しているかを生徒に問いかけた。193カ国中160位であることが示されると、生徒から驚きの声が漏れた。

○世界的に見ても、女性議員の割合は男性よりも少ないことが現状としてある。

○議会における男女の割合を同数にする、または女性の割合を多くするという動きがあるが、そのメリットとして何があるのかを問いかけ、以下のような点を教員から挙げた。

- ・多様な視点により新しい発想が生まれること。
- ・政策決定の場において、男性だけでは気が付かない視点を取り入れることができること。
- ・法制度を決定する機関を男女平等にすることで男女平等が実質的に実現されること。

○世界の取り組み事例として、イギリスやフランスでの取り組みを取り上げ、各方法の特徴と課題についてを紹介した。

○さらに女性議員の増加を実現する方法の一つとして、役職の一定数を女性に割り当てる「クォータ制（アファーマティブ・アクション）」と議員に男女の平等な参加を促進する法律として「パリテ法」を教員から紹介する。

○これからの日本の議会（男女比の問題）を考えるにあたって、どのような解決案が考えられるか3つの案を提示し、第4案として他にどのような案が挙げられるか3～4名程度のグループとなって話し合った。なお、教員から挙げられた3つの解決案については以下のとおり。

①現状のままの選挙制度をとり、A 女性議員を増やすことの世論への訴え、B 候補者選定過程の透明化を図る、C 議員養成トレーニングを実施する、D 議員の働き方改革を進めることを実施する案。

②各政党の立候補者にクォータ制を導入し、上記A～Dに加えて、E 政党助成金に制約を加える、F 女性の声の党内組織への反映を図ることを導入する案。

③議会内の議席割合にクォータ制を導入し、上記A～Fを実施する案。

○グループ内で意見を出し合い、その後、全員で輪を作りディスカッションを行った。その際に生徒から出た意見は以下のとおり。

- ・クォータ制には反対。女性に枠を「あげる」というやり方は良くない。誰に対しても機会を平等にする①の方法がよい。ただし世襲となりがちな血縁の問題は課題と思う。
- ・性二元論の問題にすり替わってしまうのはナンセンスだと思う。

- ・立候補から当選まで性別を明かさないのはどうか。
- ・性別は男女で分けられる訳でもない現代ではあるが、年齢制限のみの普通選挙に至るまでの歴史を考えると、クォーター制は必要。
- ・(当選まで性別を明かさない方法に対して)匿名だと能力を判断する基準もなくなりかねないのでは。
- ・女性だから女性の代弁ができるとは言い切れないのではないか。

○教員から、合意形成は難しいことを伝えつつ、どんな社会を目指すかが結論を出すにあたって重要であることがまとめとして伝えられた。

○最後に篠原座長から、女性議員の増加については今現在まさに課題としているところだが、まずは裾野を広げ、政治家に限らず人材育成が重要なのではないかと、この感想が述べられた。

### 3. 主権者教育推進会議委員と生徒との意見交換

○授業後に委員と生徒の間で意見交換を行い、授業の感想としては、男女平等は大切なことだが女性専用列車などは決定に至るまでのプロセスが大切だと思ったとの感想があげられた。政治への関心については、親と一緒に投票に行ったことで雰囲気わかり投票に行こうという気持ちにつながったことや、選挙立会人のアルバイトとして経験したことで興味関心が増したということ等の意見があげられた。また、政治に関心をもった時期や理由については、幼児期に自分をとりまく人々や所属するコミュニティに触れたので幼児期だと思う、という意見や、消費税が5%から8%に上がった時、税理士会の方の出前授業を受けて自分たちが支払っている税がどのように使われているのかを知った時、等の意見があげられた。

### 4. 主権者教育推進会議委員と学校・教育委員会との意見交換

○生徒との意見交換の後、校長、副校長及び授業を実施した教員との意見交換を行った。

○今回参観した授業は選択授業と伺っているが、生徒はどのような学習を選択しているのか。

- ・参観いただいた授業はディスカッションを主として、アウトプットを意識した15名程度の授業として開講。

- ・もう一つの選択科目としては、受験を見据えて

政治・経済のインプット型の授業を30名程度で開講。ただし、インプットが主であるが、授業時間の2割程度は生徒からの希望もありディスカッションを取り入れている。

○1年生現代社会（必履修）の授業ではインプットが主になるのか。

・ディスカッションが好きな生徒が多いため、話し合いを取り入れている。

○国際系の高校で主権者教育に力を入れる理由は？

・(国際に関係することに興味のある生徒が多いことから) 海外に行くと、日本のことを聞かれた際に日本のことを知っていないと海外に伝えていくことができない。また、日本の様々なことを学ぶことが、アイデンティティの確立にもつながることから、関心が高い。

○国際高校の設立の経緯は。

・もともと東京都の高校は普通科が圧倒的に多く、普通科以外の科を設けることが課題であった。その際、国際化時代に対応できる人材の育成を目指し、海外からの帰国生や外国人の子供を受け入れるような高校を設置する機運が高まり、国際科の設置が検討され、都立国際高校において初めて国際学科が設けられた。

## (4) 足立区立第四中学校

訪問日：令和元年12月3日（火）

訪問者：篠原座長、田村座長代理、植草委員、小玉委員、中村委員、松川委員

### 1. 中学校3年生社会科の視察

- ・ 中学3年生社会科（公民的分野）の授業で実施。
- ・ 「模擬区長選挙（区長になろう!）」全6時間指導計画のうち本時は5時間目。
- ・ 候補者は前回までの授業等において、候補者を支援する班員とともに政策について検討し、今回の立会演説に臨んでいる。
- ・ 本日の授業では、各班から選出された6名の候補者による政策の演説、聴衆である生徒との質疑応答の後に、個々人での投票を行いクラスの区長を選出する。

○候補者による立会演説会での政策演説、質問と答弁を行う。

- ・ 立候補者が演説を行っている際に、聴衆の生徒は、ワークシートの観点をもとに（政党のローガン、政策の内容、政策に対する質問、疑問等）メモを取りながら投票に臨んだ。
- ・ 質問と答弁の時間には、政策の内容について、個々の生徒が疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことについての質問が出された。政策に対して出た質問に、候補者は、区の財政に関するデータなど自分たちで用意した資料をもとに、さらに詳しく回答する場面も見られた。

○演説後に模擬投票を行い、クラスの区長を選出する。

- ・ 投票所に設けてある投票台及び投票箱など、本物の道具を教室に設置し、その後、教師が生徒1人1人に投票用紙を配布した。
- ・ その後、教師が開票作業を行い、クラスの代表区長を選出した。

○次時（6時間目）は、区長グループ（与党）が議会にて所信表明演説を実施する。それに対して、それ以外のグループ（野党）は質問を行い、最終的に条例を決定する予定。

## 2. 主権者教育推進会議委員と生徒との意見交換

授業後に委員と生徒の間で意見交換を行い、例えば、これまでの学習内容については、今日の立会演説に向けて、班の中で相談をしながら政策内容や政党名を考えてきたことや、収支についても生徒たちが調べてまとめてきたこと等を生徒から紹介してもらった。また、この授業を通しての変化としては、足立区について調べたことで区の現状について興味を持てるようになり、調べて分かったことを発信していきたいという思いになったこと、人に分かりやすく伝えるよう意識して発表をした経験が自信につながったこと、等があげられた。

## 3. 主権者教育推進会議委員と学校・教育委員会との意見交換

### 【授業者から】

- ◆足立区立第四中学校では、本物に興味をもつことを大切にして以前から主権者教育に取り組んでいる。
  - ・本年度は、「参議院選挙について考えよう」ということで夏休みの課題として政党別の公約を調べて比較する活動を行った。
  - ・その後、各政党の選挙公報を教師が提示して、事前学習・グループで意見交換を行う等の学習活動を設定して、最後に参議院議員選挙の模擬投票を行った。模擬投票を行うことで、学習後の生徒の感想には、「選挙の臨場感がありよかった」、「もっと候補者について調べて、模擬投票に臨めばよかった」という前向きな内容の感想がたくさんあり、有意義な学習活動になった。
  - ・このような実践を区内の他校にも広げていきたいと思うが、社会科の教員の中には色々な考え方の人もおり、難しい面もある。
  - ・授業を行う際には、公正な立場で発言するようにしており、生徒からの質問に対しては、即答せず、考えの背景を自分から探究していけるように声かけを行っている。

### 【委員から】

- スウェーデンでは日曜日（投票日）に学校に登校して、生徒が模擬投票を実施している様子をメディアが報道するという取組がある。大人と子供の投票結果の比較を行うことにもつながっている。
- 今回のような授業を受けた生徒（卒業生）の追跡調査はしているのか？
  - ・3年生への授業実践は、過去に3回行っているので追跡調査でアンケートを実施したことはある。結果は、どちらかといえば、一般の同年代投票率よりも少しだけ高い結果となった。
  - ・政治に興味をもって身近であると実感することが大切であるので、中学校から高校へ進学した際に、同様の取組を行っていけば、意識の高まりも望めると考える。
- 模擬選挙の結果について、ある政党が第1党になっているが、親の影響があるのか？
  - ・家庭の影響力はあると思う。生徒には、本物の選挙結果と模擬選挙の結果を見て、どう思うかを投げかけた。家庭（親）の考えに対して、生徒自身が疑問を持つことも大切。
- 親が投票へ行く時、必ず選挙についていく生徒、親御さんが子供の意見も聞いてくれるので、候補者について自分の意見を言う生徒もいるという話も聞いた。小さい頃からの原体験が、今回の授業にも生きている。



- ・このような学習活動を家庭でも話題にすると、今まで選挙に行っていなかった親御さんも選挙に行くようになったという話も聞く。

○取組に対する男女の意識差（興味・関心）はあるのか？

- ・普段は、女子生徒が意欲的であるが、本日の授業に関しては男子が積極的であった。もちろん個人差はあり、教師が投げかけたことに対して、自ら進んで調べてくる生徒もいる。
- ・今回の立会演説会の原稿は、雛形だけ提示したのみ。班で工夫して、本番に臨むことができている。

○教室に掲示されている「発言ルール」の内容がいい。日頃の授業の中でも、意識して指導しているのか？特に最初に掲げられている項目（結論は最初、説明は後に）は大人でもなかなかできない。

- ・学校長が、本校の生徒に育てたい力として設定している。教師の思いとしては、聴衆の生徒に対して分かる発表を目指したい。

○日本では、プライベートセルフを教えているが、パブリックセルフの意識を持つことを教える必要がある。授業においても、学校の先生は生徒に自分の意見を述べていくことが必要となる。生徒にとっても自分の意見（主張）をはっきり言える大人になりたいという目標にもなる。そういった雰囲気が学校・学級にもほしい。今日の授業（生徒の様子）からは、パブリックセルフが育っていて感心した。

○今回のような授業が、「今後生徒の意識にどういきているのか」について、ぜひ今後調査してほしい。

○学校での取組だけでなく、学校と家庭のキャッチボールも必要。例えば、授業を受けて週末、家庭で話し合ったことをレポートでまとめる等の方法も考えられる。

- ・今回、保護者にも協力をお願いし、区政に対するアンケートを実施した。
- ・今回のような模擬授業の取組については、クラス毎に保護者に案内を出している。今日も、保護者が授業参観に来ていた。

○主権者教育＝政治教育と勘違いする人もいるが、主権者教育は、あくまでも出口であって、入り口としては、地域・国・社会など身近な場面で感じることを認識することからはじまる。その中で、自分はどうのように生かされ、どのように貢献していけるのか等、ポジティブな思考を身に付けさせることが主権者教育の一番の肝となる。

○生徒の政策の中に、収益を得るという意識があるのはいいこと。

- ・どうしても区の課題ばかりに目を向けがちだが、次第に生徒から夢のある前向きな政策の方がいいという意見が出てきた。（足立区の学校給食に着目した政策もあった）
- ・足立区の犯罪件数も減少している中、イメージが依然として悪いことは足立区としての課題である。

○今回の学校視察は、どのような経緯で足立区立第四中学校に決定したのか？

- ・主権者教育を以前から熱心に推進している教諭がいる学校であったことから、今回、学校視察をお引き受けするに至った。
- ・今回のような主権者教育に関する授業は、12年前から実践している。

○区全体にそのような取組を広めていくことが重要。

- ・地域や学校の実態によって、差があることは事実。

○アメリカにおいては、大統領選挙の際には、全米一斉に学校で模擬投票を実施している。もし、公職選挙法が変わればそういった動きも出てくることが考えられる。

- 日本人はディベートが不得意。自分の意見を押し付けるだけでなく、自分の意に沿わない立場からも意見を述べることは、複眼的に考えることの訓練にもなり、重要である。
  - ・授業の中でもディベートを取り入れた学習活動も行っている。活動のメリットとして、人の話をよく聞くようになることがあげられる。
- 今日の授業を通して、教え込む授業ではなく、考えさせる授業を実践していることが、生徒の成長にもつながっていると感じた。
  - ・この授業は、他校でも必ず生徒がいきいきと取り組むことができる。こうした授業実践の中で、生徒の提案が実際の区政に反映された事例（ショッピングモール）も見られるので、ぜひ他校にも広めていきたい。

#### 4. 足立区長・教育長との意見交換

##### 【足立区長・教育長から】

- 足立区における18歳、19歳の投票率は東京都の平均を下回っている。
- 主権者教育は重要だが、選挙に行くだけでなく、自分の意見を持って、社会に参加していくことが大切であり、そういう面を大事にしたい。
- 区の選挙管理委員会では、18歳からの投票立会人を募集したり、初めて投票した方に初投票記念証書を渡したりするなどの啓発活動に取り組んでいる。
- 若い人たちは区議会で自分たちに関係のあることが議論されていることを知らない。例えば、動物が捨てられないように等、身近なことを議論しているので、それを知ってもらうことが大切。また、中学卒業まで医療費無料化などの取組が、全国一律のことと思っているので、他の地域との違いを意識してもらうことも大切。
- 昔は、黙って大人の言う事を聞くのが良い子、自分の考えを持って発言する子は生意気というような考え方もあったように思えるが、変わってきている。
- 地域に学校の取組を理解してもらうことは大切。なんでそんなこと（主権者教育）を学校でやるのだという声はなくなってきている。
- 足立区は幼稚園、保育所、こども園も教育委員会で所管しており、幼保小連携を通して幼児期からの教育を大切にしている。

##### 【委員から】

- 近隣の学校だけでなく、ネットを通じて他の地域とつながる取組をしてみてもどうか。
- 学力の定着を図ることは、貧困の連鎖を断つという事だけでなく、投票率にも反映されるのではない。経済的・社会的に弱い立場の子供は自分と政治は関係ないと思っているが、学力があがることで自分で社会を変えるという意識も出てくるのではないか。